



## 1 音楽教育研究室の専任教員

### 吉澤恭子 教授（音楽科教育・音楽学）



フランスの学校教育における音楽科カリキュラム、教材・教科書、小学校音楽専科教員を含む音楽教員養成制度に関する研究を行っています。フランスの小学校音楽科は「芸術実践と芸術史」の領域に含まれ、実に多様な学習活動が小学生に提供されています。近年は現地でのフィールドワークや教材分析をとおして、「音楽史」の学び方と指導法に関する研究に取り組んでいます。

### 石原慎司 講師（音楽科教育・指揮）



音楽科でどのような学力が得られるのか、効果的な授業方法とは何かなど、多くの問いに答えるべく研究をしています。例えば、教師の指揮と生徒の指揮の教育効果にはどのような違いがあるのかなど。その他、戦前の日本における指揮法の受容と伝播についても調べています。演奏面では、海外の指揮コンクールへの入賞経験もあることから、ヨーロッパでオーケストラの指揮を行うことが時々あります。管楽器の学生に対しては、演奏表現や楽譜解釈に関するアドバイスも引き受けています。

### 川辺 茜 助教（声楽）



専門分野はドイツ歌曲の演奏研究と解釈です。最近では近現代の声楽作品の演奏法・指導法にも関心があり、演奏と研究の両面からアプローチを試みています。声楽の授業では響きのあるのびやかな声で歌唱できるよう基本を身につけ、音楽と言葉のつながり、曲の背景など、音楽を多角的に理解・分析し、自分なりの表現ができるように積み重ねていくことが大切です。実技は一日にしてならず。自身の専攻や声楽に真摯に取り組むことは、将来教壇に立った時に大きな自信につながるでしょう。一緒に楽しく学んでいきましょう。

## 2 取得可能な教員免許

小学校教諭1種、中学校教諭1種（音楽）、高等学校教諭1種（音楽）、その他、特別支援学校教諭1種、幼稚園教諭1種など

## 3 授業科目（音楽関係）

基礎声楽Ⅰ・Ⅱ、基礎器楽Ⅰ・Ⅱ、ピアノⅠ～Ⅲ、独唱Ⅰ・Ⅱ、声楽アンサンブル、ソルフェージュ、ピアノ基礎奏法、合奏、指揮法、音楽通論、和声学、音楽史、音楽学演習、初等音楽科教育学、音楽科教育学、音楽科教育学演習Ⅰ～Ⅳ、音楽実践演習Ⅰ・Ⅱ、教養ゼミナール-音楽文化の過去と現在-、教養ゼミナール1-ドイツ語圏の音楽と文化-

## 4 研究室の関連行事（年間を通じて、以下のような演奏発表の場があります）

- 7月 フレッシュコンサート  
～ 音楽教育研究室学生によるミニコンサート
- 10月 大学祭コンサート  
～ 音楽教育研究室学生による独奏・独唱・重奏等の発表
- 3月 自由研究演奏会  
～ アトリオン音楽ホールで1年間の研鑽の成果を披露  
スプリングコンサート  
～ 1年生がデビューする機会となるミニコンサート  
出演者全員で合唱を披露することもあります。



## 5 学生のその他の取り組み

秋田県内外のコンクールへの出場を目標に、日頃から多くの学生が歌や楽器の研鑽に励んでいます。近年の秋田県青少年音楽コンクールでは最優秀賞・グランプリを受賞した学生や、全国規模のコンクールにチャレンジし入賞した学生も複数名います。

## 6 卒業後の進路

小学校教員が多いですが、近年、中学校や高等学校の音楽教員に採用された方が数名います。その他、音楽に関する研究や実技研鑽のために県外の大学院等に進学する学生もいます。



